

●障害者支援施設ウインドヒル 〒761-0450 香川県高松市三谷町3851番地 TEL 050(3734)6707 FAX 087(888)4278
●グループホーム風見の家 〒761-0450 香川県高松市三谷町3890番地1 TEL・FAX 087(888)2557

●発行／社会福祉法人ポムドパン
●発行日／2014年5月31日



4/2『世界自閉症啓発デー』・4/2～4/8『発達障害啓発週間』

～暮らしやすい社会実現へ～ 世界各地で取り組みが行われました。

自閉症の人は自分の殻に閉じこもっているわけではありません。気持ちをうまく伝えることや、他人の言葉の意図を理解することが苦手ですが、純粋で一生懸命です。今年も商店街パレードと県庁での展示を実施して啓発活動を行いました。また、癒しや希望などを表す世界自閉症デーのシンボルカラー・青色の明かりで下記、4施設を照らすというライトアップのご協力を頂きました。

①高松シンボルタワー ②玉藻公園 ③瀬戸大橋記念館 ④土渕海峡

香川各地が、ブルーのシンボルカラーで、染まることを期待したいですね。

動き出した「障害者総合支援法」

2013(平成25)年4月、障害者総合支援法が施行されました。

～総合支援法で何が変わるか？～ 大きな制度の変革期～

平成26年4月より【障害程度区分】から【障害支援区分】へ変更されました。

【障害支援区分】の定義は、「障害者等の障害の多様な特性、その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合を総合的に示すもの」として厚生労働省令で定める区分として実施されています。

また、サービス等利用計画の策定が義務付けられるようになりました。

障害者福祉サービス提供システムは、

【措置制度→支援費制度→自立支援法→総合支援法】と大きな制度転換が連続しました。

繰り返される制度変更の効果はいかなるものでしょうか？

制度が変わるたびに、福祉現場は混乱でしたが、障害者本人が安定した福祉サービスが受けられる様にその質の向上をめざして、丁寧な支援を心がけています。

そして、利用者の生活のしづらさを解消して、社会生活の向上に繋がっていくように支援現場では、日々、切磋琢磨しております。

管理者 松原 正子

ウインドヒル・グループホーム風見の家の主な活動報告

第2回 保護者と共に交流棟運動会

2/28(金)



トンネルくぐりレースの様子です。
立っている人はしっかり足を開き、くぐる人は小さく
身をかめお互いの協力がないとくぐれません。
ユニット内でも、時々練習を重ねています。



キャタピラーレースの様子です。
四つん這いになり身体全体をつかい、キャタピラー
を押し進みます。チームワークが大切です。



フラフープリレーの様子です。フラフープの中に利用者2人が入り1組と
なりリレーを行います。

地域交流棟運動会にウインドヒル、グループホーム風見の家の利用者が
参加しました。今回はC1棟の優勝でした。おめでとうございます。ユニッ
ト対抗戦で、雑巾がけリレー・キャタピラーレースなど今回もユニークな競技
が繰り広げられ大変盛り上がりしました。その中で、利用者の皆さんの競争
心や達成感など表現することの難しさが見える場面もありました。日々の
支援の中で、喜びや悔しさなど様々な感情を一緒に表現したり引き出し
たりしていきたいと感じました。

支援員 小坂 恵

お花見

4/1(火)
～7(月)

公洲公園にお花見に行きました。満開の桜並木や花びらの
絨毯を歩き、おやつを食べ楽しい時間を過ごしました。

支援員 田村 友美

香川県福祉協会 施設交流ボウリング大会



2/21(金)

毎年恒例の施設交流ボウリング大会に参加しました。大勢
参加の中、ゲームに応援に頑張りました。男子個人戦で準
優勝した利用者の方もいました。施設ごとの意気込みがす
ごかったです。

支援員 原内 恵美

ウインドヒル・グループホーム風見の家と地域とのつながり

香川県安全運転協会 春の交通安全キャンペーン



4/9水

春の全国交通安全運動のため香川町総合体育館前にて街頭キャンペーンに参加しました。沿道からドライバーに安全運転を呼び掛けると、歩行者の方から「ご苦労様」と温かい言葉をいただきました。“社会参加”の経験ができました。

支援員 安田 美佳

地元婦人会の 皆さまとのお茶会



2/25火

地元婦人会の方々のご協力のもと、お茶会の席が設けられました。回を重ねるごとに正座して待てる利用者の方が増えてきました。このような経験を下さりありがとうございます。ちょっぴり苦いお抹茶と甘い和菓子を頂き、幸せな気分を味わいました。

支援員 額田 良子

グループホーム風見の家 地域清掃活動の様子



昨年7月より、週一回行っている地域清掃。広範囲での活動には至っていませんが、少しでも地域のお役に立てるように継続しています。グリーンウォーキングは利用者の健康にも結びついています。

サービス管理責任者 和田 真由美

地元フレッシュクラブの 皆さまとの水仙ロード散策



3/24月

今年も地元三谷町と仏生山町のリフレッシュクラブの皆さんと水仙ロードの散策に行ってきました。水仙もまだ桜の花もまだ咲き始めでしたが、当日は絶好の花見日和に恵まれ、花を観察しつつを摘み、参加者の方と手話で会話をしたり、帰りのバスの中ではみんなで春の歌を合唱しました。春の訪れを実感し、地域の方々と楽しく交流した一日となりました。

リフレッシュクラブ 小野川秀佳

ポム・ド・パンの理念

障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。

障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。

障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。

障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

「4月2日 国連で定められた自閉症啓発デー」の啓発活動



今年も市民の方に呼びかけることができました。
(高松市役所にて全員で記念撮影)



商店街での啓発活動の様子です

自閉症啓発デーに思うこと

4月2日の自閉症啓発デーの頃は、ちょうど桜の開花時期と重なります。新聞にも毎年風物詩のように紹介されています。自閉症啓発デーの活動(パレード)は、まさに桜です。毎年活動することによって、少しずつ枝を伸ばし、花の数も増えていきます。そして、立派な桜の大木になっていきます。今まで全く気づかなかった人たちも、立ち止まって見てくれるようになります。今年、商店街でリーフレット・ティッシュ配りしていると「頑張ってくださいね」と声をかけてくれる人もいました。きっといつか、自閉症啓発デーの活動も「春の風物詩」になる日が来ると思っています。

グループホーム風見の家保護者 藤田美代子

椎茸菌の植付け作業



椎茸菌をつぶさないよう丁寧な作業が必要です



ウインドヒルの美味しい原木椎茸です

原木椎茸の菌付け作業を行いました。クヌギの木にドリルで穴を開け、ひとつひとつ丁寧に椎茸菌を植付けていきました。その後、風通しや雨通しのよい木陰に原木を伏せました。順調に成育すれば来年の冬には立派な椎茸が収穫できます。地元のコミュニティーでの販売が定着してきました。リピーターの声もふえています。感謝!!

地域交流棟を利用している方々からコメントをいただきました



早いもので、もう一年になりますが、60才の手習いで社交ダンスを始め足掛け5年が過ぎ、母親に競技会を観せたいと思い、パートナーも決まり一緒に練習を重ねて、去年の一月から兵庫県を始め香川・徳島と競技会に参加させて頂きC級にまで昇級しました。このスピード昇級は交流棟での練習の成果だと自負しております。週一回の利用から今年に入り月・金と週二回の利用にも気持ちよく応じてもらい、うれしく思っています。更に最近、大先輩の松本さん、三野さんのペアも加わり練習に力が入っています。今はC級で一回戦か二回戦で敗退しておりますが、いずれC級の上位に食い込んで行く所存であります。今後共、よろしくお願い致します。

松岡 正博



現在、地域交流棟を大人から子どもまでさまざまな世代の卓球の練習の場として使用させていただいております。高松市内で卓球のできる施設は少なく、低料金で卓球台の揃っている体育館などは予約がほとんど取ることができない状況です。

そのような中、無料で交流棟をお借りできることは、私たちチームにとってとても幸せなことです。交流棟は、いつも整理整頓されており、私たちも気持ちよく使用することができます。今後も交流棟を私たちの練習の場とし、卓球の技術向上を図りたいと考えています。

JF卓球クラブ 香西由紀恵

環境整備補修工事を行いました

ウインドヒル敷地内のウォーキングコースとジョギングコースの坂道に枕木を設置し、利用者の皆さんがより安全に使いやすくなるよう補修工事を行いました。また作業棟東側に軒下を増築し、雨天時の作業スペースや収穫した農産物などの収納場所を確保しました。

ウォーキング・ジョギングコースの補修工事



作業棟軒下増築工事



完成したウォーキングコース、ジョギングコースの写真です。利用者の方がより安全に生活できるようになりました。

高松短期大学から実習生を受け入れました

社会福祉法人ポム・ド・パン 障害者支援施設 ウインドヒルでの実習学び

高松大学・高松短期大学における保育士を目指す学生の実習の施設実習として、障害者支援施設ウインドヒルの皆様には学生に大変貴重な学びの機会をご提供いただいています。このウインドヒルは知的障害のあるなかでも特に対応に深い理解を要する自閉症スペクトラム障害を有する方々の自立支援に取り組んでいらっしゃる施設です。ここで生活をしていらっしゃる方々は、知的障害による特性だけでなく、自閉症スペクトラム障害に起因する様々な生活上のこだわりや行動上の特徴があります。2007年から特別支援教育が施行され、こうした自閉症スペクトラム障害をはじめとする、発達障害のある方々への社会の認識は高まっておりますが、まだまだ多くの方々はこうした彼らと共に学び、生活の一場面を共有するという経験が無い方が多くいらっしゃいます。ウインドヒルで学ばせていただいた本学学生達の中にも、こうした障害を有する方々と接することが初めての体験となる学生がおります。ウインドヒルでの支援方針の1つである「障害のある方の苦手を見極めて手助けをし、その手助けがあくまでも介護にならないよう、できる部分に関しては任せて見守り、声をかけ、必要であれば援助する」という支援姿勢は、これまでに障害のある方々の交流の機会の少なかった学生には、大変大きな学びとなっております。これまでに障害のある方と接した経験のない学生は、とすると、学生の勝手な先入観や「障害のある人は介護を必要とする、力のすくない方」という偏った障害観から、彼らのできる力を見落としてしまうことがあります。現在、幼稚園や保育所施設にも、多くの発達障害やその他の障害を有する幼児が多く在籍しております。将来こうした幼児教育現場を担うことになる本学学生には、ウインドヒルでの学びから、「障害のあること」に対する自己の捉えを再度見直し、自らの障害観の醸造や障害のある方々のできない点へ目を向けるのではなく、できる点に目を向けて自立を支援していく、障害者支援の基本的な姿勢を獲得してほしいと期待しています。

高松大学発達科学部 講師 藤井明日香

施設実習で学んだこと

施設実習をさせていただき、初めは緊張と不安がなく利用者の方とどのように関われば良いのか分かりませんでした。

また、施設というところが具体的にどのようなことをしているのかも私自身が体験するまでは分からなかったのでも不安でした。

しかし、利用者の方と接しているうち利用者の方と話し、コミュニケーションをとりたいという気持ちに変わっていました。

一日も早く、利用者の方の名前から覚えることにしました。すると、自然と利用者の方とコミュニケーションがとれてとても嬉しかったです。少しずつですが、利用者の方との距離も縮まっていきとても充実した実習ができました。

また、実習の中でたくさんの行事に参加させていただき、利用者の方の新たな一面も見ることができました。歌が好きな方、踊りが好きな方、普段接しているだけでは分からないことも行事を通して知ることがたくさんありました。利用者の方はとても楽しそうで生き生きとした姿がとても印象に残っています。その姿に私も自然と笑顔になれました。保護者の方も参加し、力を合わせて頑張った交流運動会は行事の中でも一番心に残っています。たくさんの方と交流することは利用者の方にとっても大切なことであると思いました。

私は、今回貴園で実習させていただいたことで利用者の方と出会え、たくさんのことを学び、経験することができました。

また、利用者の方に対する職員の方の配慮や支援はとても勉強になりました。どんなことでもまずは、自分の力で挑戦させること、行動、様子、表情を見て利用者の方に応じた対応をしている姿を見て、これから保育士になろうとしている私にとっても必要なことであると思いました。子どもたちも一人ひとり特性が違います。その子どもたちに応じた対応をし、できないからといってしてあげるのではなく、まずは自分の力で挑戦できるように私も配慮や支援をしていこうと思いました。

二週間という短い期間でしたが優しく接して下さった利用者の方、丁寧に指導して下さった職員の方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

高松短期大学 保育学科2年 M.O

施設実習の感想・学んだこと

初めての施設実習で、利用者の方とどう関わればよいのか分からず、利用者の方に対して「恐怖感」を抱いてしまった部分もありました。しかし、2週間という短い期間の中でも毎日関わっていくうちにだんだん関わり方も分かり、笑顔で利用者の方と関われるようになったように思います。

今回の実習で、私はたくさんの方のことを利用者の方や職員の方から学ばせていただきました。一番心に残っているのは、最終日に参加させていただいた運動会です。利用者の方が生き生きと参加していたのがとても印象的でした。職員の方、保護者の方と喜びを共感し合いながら活動できることが大切なのだと思います。障害があるからといって全部やってあげてしまうのではなくその人ができる事やできそうな事は本人(利用者の方)が意欲を持ってできるように職員の方が声をかける。利用者の方を一人の人として向き合っているのだと感じました。そして、職員の方の声かけに対して素直に利用者の方が応じる場面をたくさん見ました。これは、利用者の方と職員の方との間に信頼関係ができていけるからなのだと思います。適切な声かけや支援をするためには、普段から利用者の方の様子をよく見たり関わったりして、その利用者の方のことを理解する姿勢を持ち続けることが大切だということが分かりました。一人ひとりに合った声かけや支援をすることは保育にも通じるところがあり、対人援助においても欠かせない配慮の一つであると思いました。

この実習を通して知的障害の方へのイメージが大きく変わり、実習前に思っていた「少し怖い」という気持ちはなくなり、むしろ「素直で優しい方」という印象を持つようになりました。人と関わる時に先入観を持たないということが、その後のよい関係を築くことに重要なのだなと思いました。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

高松短期大学 2年 N.O

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員

(敬称略・順不同)

◆個人会員 平成25年度 平成26年 1月1日～平成26年 3月31日

具 民和 大谷 幸義

◆個人会員 平成26年度 平成26年 4月1日～平成26年 4月25日

松岡 正博	藤沢由美子	大門 巨	山本 哲	大垣 博信	徳永 国広	三好美千代	保本ふさ枝
大宅 秀美	二條 忠義	浅岡加寿子	細井 千秋	三谷 善則	今滝 知子	湯浅美智子	村山 昌
豊島 純子	安倍 晶子	鈴木 克幸	鈴木 裕子	鈴木幸太郎	鈴木裕太郎	鈴木 幸市	金川 謙二
金川 恵子	金川 大介	松原 廣	松原 正子	堀 仁美	安田 美佳	小坂 恵	樽谷 学
三好 勉	福田 宣央	河北 豊	松下 静江	安西 秀雄	安西 政美	刈崎 輝一	深井 一恵
伊賀 宏文	和田 龍兵	松原 條一	磯部 康子	大橋 光政	大橋美由紀	中野真貴子	藤田 和代
藤田美代子	藤田 容三	藤田 洋志	畠山 一夫	畠山 進	松川 愛子	伊豆野美代子	宮崎 成
宮崎 昭子	佐光 昭二	岡 康弘	三好 悦子	安原 真理	安原 依子	小西 朋子	福岡 茂雄
土居 悦子	岩部 雅人	山本 斐	堀田 国彦	田中 輝明	西形雄次郎	近藤 勝	石元 信子
村尾スミ子	秋山 智	東川 里美	松原 馨	白川 勉	鶴見 翼	安藤 敏典	藤田 共子
松木知恵子	中野 博子	幸田加津子	北條美代子	塩本 弘子	高木 幸恵	青井 美彦	増田 泰子
美浦 称一	瀬川 之人	後藤見知子	坂本 厚子	大熊 弘子	高木 春美	前田 浩子	安藤美智子
山本 信二	中川 英世	中川喜代美	鎌田 泰明	松尾 能之	宮崎 歩	藤岡 剛	富田 ト工
山本 勝博	新名 義隆	新名 義弘	横井 和子	桑田 尚悦	小林 篤司	小林真左子	寒川 妙子
武田 崇香	山下真理子	片桐 正晶	片桐 泉	松本 建男	高山 照子	朝日 光顕	朝日 由紀
宮宇地 峻	愛川 幸子	藤岡 幸弘	細井 香	西形 穰	西形 凉子	西形菜々美	三木 隆文
三木 スミ	森 ヨン子	土居 一郎	土居 慶子	土居 良助	土居 晶子	近藤 文男	近藤 豊子
近藤 香織	谷川 博彰	谷川 桂子	谷川 聡	田岡 博雄	宮武 宏	宮武 孝宏	杉崎 行春
川井 浩三	松下 学	松本 綾子	武内 京子	西原 武夫	児玉 慶子	村川 文生	遠藤 能成
三野美知子	松本 良一	松原 健太	和田 則昭	和田真由美	森永 政子	安藤 利政	三好喜久子
吉田 竜平	高木美枝子	猪塚 正章	高橋由佐子	大西 規子	遠藤 定則	小山 敦弘	坂口 麗子
石井 寛	計野浩一郎	三好 紀子	吉村繁三郎	重利 久代	大西利喜子	木内 茂巳	安部 友紀
元木 康之	真鍋 康徳	多田 修	柿内 孝子	柿内 浩樹	三木 隆司	歳森登喜恵	大川 和

◆団体会員 平成26年度 平成26年 4月1日～平成26年 4月25日

ツツミ医院 (株)トミタ (株)一陽バック (株)遠藤米穀酒店 自由民主党香川県第一選挙区支部 (有)久間薬局
大成段ボール(株) (有)晴天 (株)合田工務店 (有)高島産業 田中電気保安管理事務所 (株)生コン輸送
(株)ムーミー (株)たまも (株)ミネック アイ・プロジェクト 百十四銀行空港口支店

平成26年 1月1日～平成26年 4月25日現在、以上の方々に継続及び新規ご入会頂きました。
4月26日以降にご入会の方々のお名前は次回の会報に掲載させていただきます。
本当にありがとうございました。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」とグループホーム「風見の家」をサポートしています。

今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にした理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようお願い申し上げます。

年会費 個人会員 一口 3,000円 団体会員 一口 10,000円

ご入金方法 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

研修報告

・第28回全国自閉症者施設協議会熊本大会 第1回実行委員会

2月20日(木) 熊本県

全国自閉症者施設協議会 熊本大会運営委員会に初めて参加して、協議会に加入している施設でもそれぞれにカラーが出ているのを感じました。懇親会では同年代の人と職員間の連携、仕事に取り組む意識、職員研修等の情報交換をする事ができ、貴重な時間となりました。利用者の生活の幅、興味の幅が広がるような関わり方が大切だと改めて実感しました。

主任 生活支援員 竹内 俊介

※全国自閉症者施設協議会とは

全国自閉症者施設協議会とは、『自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立ならびに社会参加のために実践と研究を推進し、さらに、これに参画するものの研鑽と相互交流を促進することを目的』として、全国の自閉症者施設(自称)の協議会です。

全国自閉症者施設協議会ホームページより抜粋

～暖かなお気持ち～

ありがとうございました 今後ともよろしくお願いします



高松市共同募金会様より
52インチテレビ、DVDプレイヤーを
頂きました。



三溪小学校 5年1組、2組様、三谷み
どりと花の会様から水仙のプランター
を頂きました。



JF卓球クラブ様から卓球台を頂き
ました。

ウインドヒル『地域交流棟』を利用しませんか

スポーツ、芸術活動、100名程度の研修会などに使用できます。卓球(卓球台を
備えています)、ダンス、音楽演奏などにご利用いただけます。利用料は無料。エ
アコン使用時のみ、光熱費として1時間につき500円必要となります。施設利用者
に支障のない時間、地域交流棟を一般の方にご利用いただいています。

問合せ：障害者支援施設ウインドヒル TEL：087-888-4277 050-3734-6707



社会福祉法人ポム・ド・パンのホームページをリニューアルしました！！
当法人からのお知らせやウインドヒルでの取り組みなどを随時更新していますので是非ご覧ください。
スマートフォンでは右のQRコードから読み取れます。
アドレス：<http://www.pomme-de-pin.or.jp/>



保護者会コーナー

「交流棟運動会を 見て」

「運動会は嫌い。競争心？ないなあ。身体を動かすのは苦手だし。」我が息子が話せたらそう言つてたかも？以前なら。

先日の交流棟運動会。不器用な感じは少し見られましたけど、ちゃんと競技をしようという意欲もありましたし、身体もよく動いてました。見違えるような息子の姿に、眼からウロコでした。運動会で楽しそうにしている息子の姿を見られるなんて、ちよつと胸が熱くなりました。「参加してるだけ」から成長して「競技をする」ことができるようになった息子。支援員さんには、もうひたすら感謝です。息子だけじゃなく、みんな頑張ってたし、楽しんでいたし、何より生き生きしていましたよ。うちの支援員さんはすごいです。親も頑張らなくっちゃ、と気持ちを新たにさせてもらった運動会でした。

細川 文子

編集後記

平成26年度は、2名の利用者さんが仲間となり、共に生活をしています。少しずつ日課にも慣れ、先輩利用者さんからいろいろと吸収している様子が微笑ましいです。お互いに切磋琢磨して成長していったほしいと思います。



メリー♀(年齢非公算)
2006年12月にウインドヒルに来ました。



モモ♀
2006年1月生まれ

「ポム・ド・パン」とはフランス語で松ぼっくりという意味です。「ウインドヒル」の建つ丘には、時折、松ぼっくりが転がっています。松ぼっくりは、松の木の生命である種子が住んでいるお家です。ここで種子が大切に育まれ、また、次の命を生み出していきます。一年中緑の葉をつけ、砂地でも荒地でもしっかりと根をはり、大きく枝を広げている松。その生命をしっかりと包み込んでいる松ぼっくり。「社会福祉法人ポム・ド・パン」も強く・たくましく・大きく、そして、小さな一つひとつの生命を育む暖かな場所なのです。